23．夏秋花利用による樹上越冬レモンの果実品質

1．背景とねらい

広島県のカンキツ産地では，レモンの周年供給を目指して長期貯蔵やハウス栽培が行われている。しかし，長期貯蔵では腐敗によるロス，ハウス栽培ではコスト高が問題である。

レモンは他のカンキツ類と異なり，通常の開花期である5月以外の7～9月にも開花する性質（四季咲き性）が強く，着果した果実は翌年の夏季に収穫可能で，低コスト栽培の可能性がある。しかし，果実が大きくなりすぎて規格外となる等の問題がある。このため，当センターが保有するレモン6品種･系統の夏秋花由来果実の越冬後の果実形質等から夏季出荷に適した品種を明らかにする。

2．成果の内容

1）果実横径は，「マグレーン」が最も大きく，「ベルニア」が最も小さい。また，果実肥大は，12月中旬から2月下旬までは停滞したのち，2月下旬以降は盛んになる（図1）。

2）「マグレーン」の果実横径は，6月中旬には2L果の上限である67mm以上となる。一方，6月中旬における「ベルニア」の果実横径は，60mm前後である（図1）。

3）6月22日における果実重は，「ベルニア」が最も大きく，「シシリー」が最も小さい。果径比からすると，「ベルニア」が最も細長く，「シシリー」が最も円形に近い形状である（表1）。

4）果皮厚は「シシリー」が最も薄く，果汁割合は「マグレーン」が最も高い（表1）。

5）「ベルニア」および「シシリー」のBrixと酸度は低い傾向である（表1）。

6）以上の結果から，夏秋花由来果実を用いた越冬栽培では，果実横径が大きくなりすぎない「ベルニア」または「シシリー」が有望と考えられる。

3．利用上の留意点

1）夏秋花由来の果実は，ホコリダニ類やアザミウマ類等の被害によって，果実の外観が不良となる場合もあるため（図2），防除方法等の検討が必要である。

（果樹研究部）

4．具体的データ

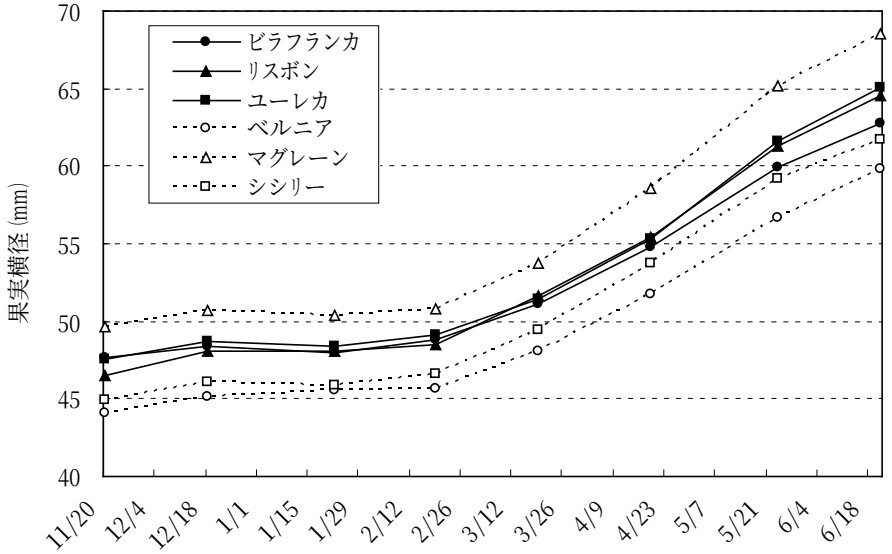

図1　夏秋花由来の果実横径の推移（2009～2010年）

表1　レモン品種・系統の違いと夏秋花由来越冬果実の品質

品種名	果実重 (g)	横径 (mm)	縦径 (mm)	果径比 (横/縦)	果皮厚 (mm)	果汁割合 (%)	種子数 (粒/果) 完全	不完全	しいな	Brix (°Brix)	酸度 (%)	着色 L	a	b
ビラフランカ	139	63	86	0.73	6.0	23	15.7	3.2	1.0	6.8	5.4	74	-4	54
リスボン	147	65	81	0.80	6.6	24	12.0	5.1	3.1	6.9	5.3	74	-4	54
ユーレカ	156	65	86	0.76	6.7	24	12.3	1.2	1.3	6.5	5.8	73	-3	50
ベルニア	128	60	85	0.70	6.0	23	5.6	1.2	0.8	6.0	4.6	73	-8	43
マグレーン	157	68	84	0.82	6.7	29	9.4	6.1	4.3	6.9	5.7	74	-5	50
シシリー	118	62	67	0.92	5.3	26	5.8	1.8	2.8	6.0	4.8	74	-4	53

注1）2010年6月22日調査。台木品種は，いずれも「カラタチ」。

図2　夏秋花由来果実の外観